

制服(体育着着用)についての討論会 議事録

1. 日 時 令和7年11月5日(水) 15:30~16:10(40分)
2. 場 所 大講義室
3. 出席者 学校運営協議会委員10名 本校職員10名 生徒会本部生徒7名
4. 討議内容 (1)猛暑時における体育着着用及び体育着での登下校について
(2)衣替え廃止について
※各グループに分かれての意見交換
(3)学校評価アンケート及び魅力化プロジェクトについて
5. 議事録 ※討議結果はいずれも決定事項ではなく、参考意見です。

(1)猛暑時における体育着着用及び体育着での登下校について (2)衣替え廃止について

登下校時の快適さ

- 自転車や徒歩での通学時に汗をかくため、ジャージの方が快適である。
- 夏場の暑さ対策として、体温調節がしやすい。

授業へのスムーズな移行

- 体育の後に制服へ着替える必要がなく、次の授業の準備がスムーズ。
- 体育着で登下校することで、着替え時間の短縮により、遅刻防止や時間的余裕が生まれる。

更衣室の混雑回避

- 体育着で登下校した方が、更衣室の渋滞や遠さによる遅刻を防げる。

衛生・快適性の向上

- 替えのTシャツを持参すれば、汗をかいた後で簡単に着替えられるので、衛生的である。
- 制服のブラウスが汗で透けることを防ぐことができる。(特に女子)

エコ・クールビズの観点

- エアコンのない教室での学習時にジャージの方が快適である。
- 体育着の方が洗濯が楽で、体温調節も楽である。

生徒の意見

- 「楽で過ごしやすい」「快適」「気温に応じて、服装を自分で選ぶことができるので、判断力を養う機会になる」など、肯定的な声が多数。

学校運営協議会委員の方の意見

- ジャージ登下校に違和感はないと考えている。
- ジャージ=体操着というイメージがあり、授業や登下校での着用に違和感を持つ大人もいる。
- 身だしなみのリテラシーや TPO を学ぶ必要がある。

制服の価値

- 制服を快適にする工夫もある必要がある。(ポロシャツのデザイン・色など)
- 制服があることで、社会的な印象や規律が保たれるので、制服は必要である。(猛暑時の体育着着用には賛成である)

ジャージへの抵抗感

- ジャージが嫌だという生徒もいる。
- 登下校に着用する際には、学校名が入っているので、看板を背負っているという意識を持つ必要がある。
- 防犯面で、氏名が刺繍してあることには不安がある。

着替えの問題

- 混雑や女子のキュロットによる着替えのしづらさ。
- 登校後に一斉に更衣室で着替えるので、混雑する。→登校も制服であれば楽である。

ルール整備の必要性

- ガイドラインの作成が今後の課題である。
- 生徒と教員の意見をすり合わせた上でのルール運用が望ましい。

衣替え廃止提案について

- 自分で考え、判断する力を育てるためにも、一斉の衣替えは不要で、個々の体調管理に任せるべき。

クールビズの例

- 市役所ではネクタイ着用をしない期間(5月～10月)を設けており、大人の服装の柔軟性も参考にして、学校でもクールビズを導入してはどうか？

(3)学校評価アンケート及び魅力化プロジェクトについて

<学校評価アンケート>

・選択肢の改善提案: 奇数の選択肢ではなく、Yes/No 形式にすることで回答が明確になり、企業でも改善されている例がある。

・アンケート結果の変化: 魅力化プロジェクトの影響で、アンケート結果がどのように変化しているのかを知りたい。

<同窓会から>

・特定の生徒や部活動への寄付は難しいが、全体に平等に恩恵がある設備(例: エアコン)などへの支援は可能ではないか。

<よのなか科について>

・企業との連携: 企業の中にも「よのなか科」に参加したいという声があり、生徒の自立度を直接見たり話したりする良い機会になる。

・来年度の運営方針: よのなか科をどう動かしていくかについて、今後の方向性を検討する必要がある。